

本時のねらい

(2位数) + (2位数) で繰り上がりのない筆算ができる。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

・ロイノートを使い、見通しをもたせ、PCで操作しながら筆算のしかたを理解する。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

・タブレットPC ・ロイノート

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の見通し(今日のお話→漢字→プリント→復習→ふりかえり)を持たせ、めあてを確認する。 めあて「新しい漢字を覚えよう」 ○復習をする。 ○教科書を確認し、本時の問題を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> ○筆算を行うための3つルール(位を縦にそろえる、一の位を計算する、十の位を計算する)に設定し、課題ごとに振り返りを行う。振り返りは、異なる表情の絵文字から選択させる。
展開 (20分)	<ul style="list-style-type: none"> ○タブレット上の計算棒(数を数えるための棒)を操作しながら、計算の仕方を理解する。 ○ノートで練習問題を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「筆算の仕方」を見ながら、実際に計算棒をタブレット上で動かしながら、確認する。
まとめ (15分)	<ul style="list-style-type: none"> ○筆算の仕方をタブレットに書き込みながら確認し、まとめる。 ○eライブラリを使い、復習を行う。 ○算数ゲーム 	<ul style="list-style-type: none"> ○まとめは、大切な部分を書かせて、全体の振り返りも絵文字を使い行う。

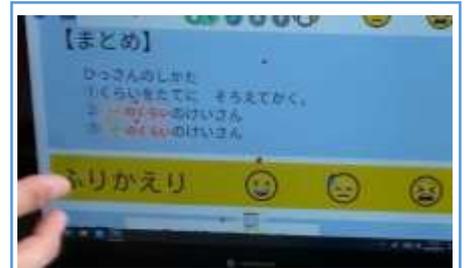
1人1台端末を活用した活動の様子



【写真1】1週間の指導計画から本時の見通しを確認している場面



【写真2】タブレット上で計算棒を操作し、筆算の仕方を確認している場面



【写真3】まとめを確認し、本時のふりかえりを入力する場面

児童生徒の反応や変容

- ・見通しをもたせる(課題を3つに設定する)ことで、意欲的に取り組むことができていた。また、ふりかえりを絵文字で行うことで、言葉では言い表すのが難しい時でも、表情を選び、自分の気持ちを選ぶことができた。
- ・PCを活用し、計算棒の操作を行うことで、視覚的にわかりやすくなり、楽しみながら操作をすることができていた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・写真2のように、計算棒・筆算・筆算の仕方をまとめ一画面にて見えるようにすることで、より集中して行うことができた。
- ・タブレット上で計算棒を動かしたときに、それぞれの数え棒が動くだけでなく、動かしたところの数え棒を白黒にすることで、移動したことがわかりやすくなった。